

本校防風林の森林公園化について

岩手県立盛岡農業高等学校林業科2年 鈴木哲也、○小本賢太、小山田祐太
伊藤和幾、大下祐輔、佐々木修平、鹿沢 登、熊谷英之
高橋 純、高橋達也、福島恭平、中田めぐみ

1 はじめに

本校校地内には広い防風林がありますが、全く利用されていない。そこで私達はこの防風林を森林公園として整備し、林業や環境学習の場、また生徒の憩いの場として活用したいと考えた。

2 防風林の森林調査

上記の目標を達成するため、私達は、まず活動の対象となる防風林の測量を行った(図1)。その結果防風林は、東西約240m、南北540mのY字形をしており、全体で約4.8haの面積があり、生育する樹木の状態から、A B C D 4つの区域に分けることができた。

これら4つの区域にそれぞれ20×20m方形区を設け、直径6cm以上の樹木について調査した結果が表1である。A区はアカマツ、コナラなどの大径木が生育し、種類数、平均直径が最大で、成熟した豊かな森林と言える。B区はスギ等の植栽地だが、手入れ不足で、生育不良の箇所が見られる。C区はカラマツ人工林で、立木材積が大きく、現在間伐が必要な状態である。D区はクリの果樹園だが、手入れが不十分でアカマツやヤナギ類などの侵入が認められる。

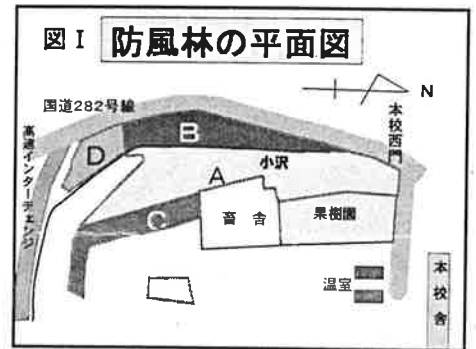


表1 森林樹木調査

	個数	平均径 (cm)	立木材積 (m) ³	森林の特徴
A区	9個	25.8	287.0	多樹で成熟した森
B区	8個	17.1	125.0	生育不良
C区	3個	21.3	388.5	成長旺盛な人工林
D区	3個	16.0	2.4	果樹園が自然林化

3 防風林の整備計画

上の調査結果を踏まえ、私達は森林公園化について次のような方針を立てた。

A、C区東側一帯→” 景観形成ゾーン” =現在の植生を生かしながら、森林資源と森林景観の充実を主眼とした管理を行う。

B、D区西側一帯→” 散策ゾーン” =森と人間が一体化できる空間作り、すなわち森林学習やレクリエーションに重点を置いた管理を行う。

4 防風林整備の実施

上記の方針に沿って今年度森林整備を行ってきた。以下にその内容を報告する。

(1)ベニヤマザクラ植栽

4～5月、私達は散策ゾーンの周囲に滝沢村の木”ベニヤマザクラ”を植栽した。ベニヤマザクラは、本来自然林に多数生育していたが、滝沢村では開拓の歴史と共に失われ、地元の方々が現在保存運動を行っている。私達が植えた苗木が将来、国道282号線と防風林の森林空間を仕切る緑のカーテンになると共に、その実が多くを鳥を呼び寄せることを期待したい。

(2)有用植物調査と増殖の取り組み

6月には防風林内の有用植物調査を行った。その結果、ただのヤブとっていた防風林にはセリ、ウルイなどの山菜類、ギンラン、サイハイランなどの貴重な花が自生していることが分かった。これら貴重な植物については目印を付けて保護と生態調査を実施している。

また、更に資源充実を図るため、散策ゾーンで、ヤマユリ、シドケ、コゴミの植栽試験を行った。このうちヤマユリについては杉葉、金網などネズミよけの処置に加え、日当たりによる比較を行うため、7種類の試験区を設定した。発芽数、開花数ともに上木のない日当たり地の成績が良く、中でも金網や薬剤で球根にネズミよけ処置をした試験区の開花がよいという結果だった。

また、シドケ、コゴミも植栽したもののうちそれぞれ38%、100%が定着した。自生するウルイ、ギンラン等と合わせ、私達の森林公園を花や山菜の宝庫にしたいと考えている。

(3) 林道、遊歩道の建設

7月、景観形成ゾーンに林道の建設を行った。樹木を伐採しないよう、コース設定し、バックホーで大まかに斜面を開削した後、スコップ等で路面を整えた。

また散策ゾーンには、橋、木階段、木道を配置した総延長 1.2km の遊歩道をつくり、防風林を周回できるようにした。

(4) 林相改良

11月、景観形成ゾーンに郷土樹種ブナ、ナラ、カエデなどの植栽を開始した。現在のの上木アカマツの後継樹として育てると共に森林を複層林化し、森林生態系の多様化を図る。このことによってさらに様々な生き物をはぐくむ豊かな森にできると考えている。

5 まとめ

この他、散策ゾーンへのベンチ設置、広場の造成、マイタケの自然栽培、景観形成ゾーンでの間伐、巣箱・水質浄化施設の設置等様々な作業に取り組んできた。

私達は木材生産と合わせて、レクリエーションの場や景観、生物の多様性、大気の浄化など快適な環境を高度に発揮するための森林管理も、林業の大切な分野だと考える。防風林の森林公園化を通して、生活環境と生産を両立する都市型の小さな林業すなわち”コミュニティ林業”を実践してみたいと考えている。

表2 防風林内の有用植物の調査結果

山菜類	セリ、コゴミ、ウルイ、 タラノメ、キボウシ、 ヤマブドウ
草花類	サイハイラン、ギンラン、 エビネ、レンゲツツジ

目印を付けて保護と生態調査

図2 ヤマユリ植栽試験結果

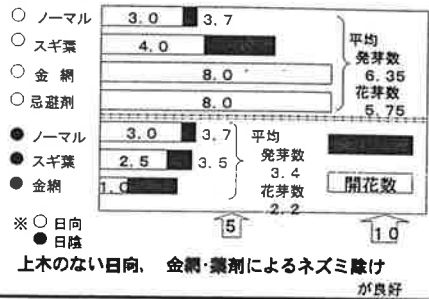


図3 林道、遊歩道の建設

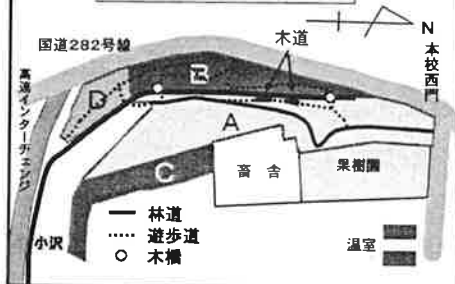


図4 郷土樹種ブナ、ナラ、カエデの植栽

